

第3章

授産施設の現状と課題

第1節 授産施設実態調査の概要

平成13年10月から11月にかけて授産施設の受注状況や経営状況等について実態を把握するため、調査員を派遣し、調査を実施しました。以下はその概要です。

1 施設の種別、施設数（分場を含む）

3種施設の利用者割合は、知的障害者施設が53.7%、身体障害者施設が37.5%、精神障害者施設が8.8%となっている。利用者の男女比は、男性62.3%、女性37.7%。年齢構成は、20歳台から50歳台までそれぞれ約20%前後で、その他10歳台、60歳台、70歳台が残りをおさめる。平均年齢は、全施設平均で男性が42.8歳、女性が39.2歳である。

種別	施設数	定員	利用人員	職員数
知的障害者授産施設（入所）	3	169	156	71
知的障害者授産施設（通所）	18	536	549	203
身体障害者授産施設	1	40	40	24
重度身体障害者通所授産施設	4	287	281	96
身体障害者通所授産施設	9	205	200	74
精神障害者通所授産施設	5	140	123	47
知的障害者福祉工場	2	60	42	24
合計	42	1,437	1,391	539

2 損益実績（1施設平均；単位千円）

種別	売上額	原材料・必要経費	作業工賃	繰越金
知的障害者授産施設	16,254	9,340	5,682	1,232
(再掲)知的障害者福祉工場	59,917	32,516	20,512	6,889
身体障害者授産施設	31,770	19,008	11,054	1,708
精神障害者授産施設	6,775	2,662	3,821	292
全体	20,852	12,125	7,419	1,308

3 作業工賃（1人1ヶ月当たり；単位円）

種別	1人当工賃	最高工賃
知的障害者授産施設	17,340	56,910
(再掲)知的障害者福祉工場	40,698	127,832
身体障害者授産施設	24,788	107,700
精神障害者授産施設	17,945	36,932
全体	19,996	

1人当たり工賃の全国平均：23,785円（平成12年度社会就労センター実態調査結果）

4 授産施設の課題

授産施設実態調査において、調査員と施設側とで施設の現状を踏まえ、様々な課題について話し合いました。

その結果、浮き彫りにされた課題をまとめてみると次のとおりです。

(1) 施設・設備

設備の機械化、更新が必要
利用率の低い設備の活用
機械の日常的な保守点検の励行

(2) 製品・サービスの開発力

新製品開発のためのニーズ把握、ノウハウ不足
職員の技術研修の必要性

(3) 技術力の維持・向上

職員の技術力不足（研修の必要性）
他の授産施設との情報交換の必要性

(4) 品質の維持・向上

品質の管理、検査能力の不足
TQCの実践が必要
生産管理、品質管理が不十分

(5) コストの削減

消費電力量の削減が必要
パート人件費の削減が課題
職員、利用者に対するコスト意識の喚起が必要

(6) 納期の短縮

適正在庫に基づくデリバリー管理
作業工程の見直し

(7) 販路開拓、取引先開拓

営業活動や商品PRが口コミにとどまっており、不十分
出張販売、予約販売の拡大
IT活用によるマーケティング拡大

(8) 管理体制

生産計画、工程表の作成が不十分
職員の研修体制
専門知識を持ったアドバイザーやボランティアとの連携
工場運営責任者の専従化

第2節 取引先事業所調査の概要

授産施設実態調査の結果把握された授産施設の取引先事業所に対し、取引の契機、取引の評価、今後の取引拡大の可能性について、平成14年1月から2月にかけて郵送により調査をしました。以下はその概要です。

現在取引中の事業所(各施設上位5事業所)122ヶ所中、55ヶ所回答(回収率45.1%)

1 取引形態授産施設の取引形態(一部複数回答有)

作業委託 30 事業所(54.5%)、製品購入 18 事業所(32.7%)、その他 10 事業所(18.2%)

2 取引の評価

(「大変良い」、「良い」、「普通」、「悪い」、「大変悪い」の区分で評価)

(1) 価格面

良い(27.1%)、普通(39.6%) ; 計 66.7%

(2) 製品、作業の品質、加工技術面

良い(32.7%)、普通(46.9%) ; 計 79.6%

(3) 納期(作業期間)

大変良い(43.8%) 普通(27.1%) ; 計 70.9%

(4) 総合評価

良い(54.2%)、普通(31.3%) ; 計 85.5%

3 取引拡大の余地

取引拡大については、不透明な要素が強いものの、事業所の約4割が「現在又は将来、取引拡大の余地がある」と回答しています。

4 取引先からみた授産施設の課題

取引先が授産施設について日頃感じていること、授産施設を活性化するための意見、提言等について、自由に記載していただきました。

その結果、出された課題等をまとめてみると、次のとおりです。

品質、納期がばらつく製品がある。

品質が標準化されていない傾向がある。

製品のデザイン力が乏しい。

加工賃、納入価格が他の民間企業との取引価格より高いものがある。

プロの仕事と比較することは無理がある。

どのような商品が製造可能か、どのような作業ができるのかわかりにくい。

第3節 調査結果からみた課題（総括）

今回実施した授産施設実態調査及び取引先事業所調査の調査結果から今後、授産施設の活性化のための課題として考えられる項目は次のとおりです。

【項目ごとに整理した課題・問題点】

項目	課題・問題点
1 製品開発	(1) 開発のためのノウハウ確保
	(2) 顧客のニーズ把握
	(3) 地域に根ざした商品開発の視点
2 品質の維持・向上	(1) 品質の管理、検査能力の向上
	(2) 農産物の品質の管理
	(3) 製品の品質向上、付加価値化
3 販路拡大・受注促進	(1) 営業力の確保
	(2) 固定客の確保
	(3) 広報・宣伝
	(4) 展示即売会の実施
4 生産管理	(1) 効率的な作業体制
	(2) 生産体制の強化
5 経営管理	(1) コスト削減
	(2) 経営管理体制の強化
6 連携体制	(1) 地域連携
	(2) 他施設等との連携